

巻 頭 言

コロナ禍による行動制限が続く中ではありますが、少しずつ従来の活動を取り戻しつつあります。県立図書館も多くの利用があり、休日ともなると児童文化室にはお子様連れの御家族が来館されます。本を手にした子供たちの嬉しそうな表情を見ると温かな気持ちになります。

さて、読書によって県下全域に文化を届けるとともに、読書をとおして親子のふれあいや絆を深めたいと、当時の県立図書館長 久保田彦穂（椋鳩十）氏によって提唱された「親子20分読書運動」は、昭和35年から現在まで途絶えることなく続いてまいりました。本県では、この活動が礎となり、学校や地域等が連携を図りながら、子供たちが本に親しむ時間や場所が数多く提供されています。県下の児童生徒の読書に対する意識は全国と比べて高く、各学校では朝読書の活動も実施され、子供たちがよく読書に親しんでいるということが県教育委員会の読書量調査からも明らかです。

また、今年度の読書グループの結成や活動に関する状況を見ますと、数多くの読書グループが活動内容や実施回数を制限しながらも学校や地域で活動を継続していらっしゃいます。しかし、コロナ禍でやむなく休止もしくは閉会された団体もありました。いつの時代も本をとおして人と人がつながることは、子供たちの成長にとって大切な役割を担っていると感じます。多くの皆様が本と子供たち、そして学校や地域とつなげる活動に携わってくださいますことに心より感謝申し上げます。

本誌「さぎなみ」は、親子読書に関わる皆様のために、参考となる研修会の情報や子供読書推進のための様々な取組、本県の読書推進活動の状況などをまとめたものです。本誌作成にあたり、御多用な中に御寄稿くださいました団体の皆様には、心よりお礼を申し上げます。多くの方に御活用いただけるように、県立図書館ホームページ上にも公開しております。

今後も「親子読書運動」の理念を大切に、県下隅々まで豊かな読書の世界が広がっていくことを願います。

令和5年3月

鹿児島県立図書館長 古川 伸二